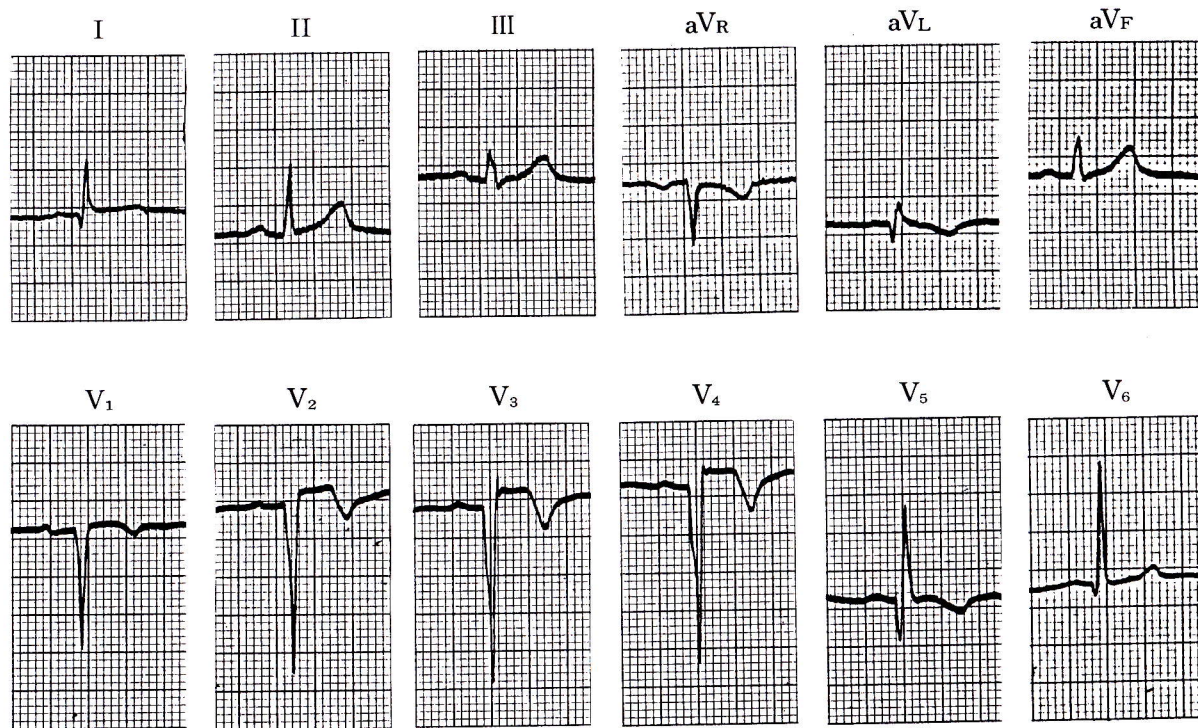


症例 37

●47歳 男

- 1年前、心筋梗塞に罹患、その後ときどき労作時に不整脈を感じていた。



- 1) V₂からV₄にST部分上昇がみられるが急性期と考えてよいか。

前壁梗塞（陳旧期，心室瘤の疑い）

V₃, V₄にQSあるいはQrパターン．V₂では小さなr波（embryonal r）．I, aV_L, V₅, V₆に浅いが幅広いQ波がみられる．V₂からV₄には冠性T波が認められる．以上の所見は前壁領域の陳旧性心筋梗塞を示している．しかし心筋梗塞発症

後，1年たった現在においてもST上昇がV₂からV₄に認められる．心筋梗塞発症後3ヵ月においてもなおST上昇が基線に復しない場合，心室瘤が強く疑われる．本症例のように不整脈が続いているのも，この心室瘤が原因と思われる．

MEMO

〈心室瘤とECG〉

心室瘤のときの心電図変化は，一応，つぎのように考えられている．

すなわち，右図のように心室瘤が存在するとき（Aの部分は収縮しない部，Bの部分は代償的に強く収縮している部），AとBの境界部に強い張力がかかり，傷害電流がBからAに流れる．この傷害電流が持続性ST上昇の原因と考えられている．

